

“ちいさな企業” 成長本部（兵庫県神戸市）
議事概要

中小企業庁

1. 概要

日時：平成25年5月12日（日） 13：00～15：00

場所：兵庫県神戸市（神戸商工会議所 第二、三会議室）

参加者：赤羽経済産業副大臣、中小企業庁 鈴木長官、経済産業省 佐々木資金課長、近畿経済産業局 小林局長、中小企業・小規模事業者10社、支援機関4機関、兵庫県、神戸市

2. 出席者からの主なご意見

＜第一部 中小企業の発展、地域貢献に向けた課題と今後の取組＞

- 表六甲ドライブウェイでオルゴールタクシーというものを走らせている。三ノ宮から六甲山頂に向かう間の短い時間であるが、お客様には好評。こうしたものでも地域資源として使えるのではないか。
- 中小企業においては経営者が全ての責任を負うことになっており、経営者が頑張れる仕組みを作って欲しい。私自身も神戸市や経産省から「デザインルネッサンス神戸」や「おもてなし経営企業選」といった表彰を受けたが、こういった表彰制度をもっと充実できないか。例えば米国のマルコム・ボルドリッジ賞（米国国家品質賞）を参考にできないか。
- 神戸市機械金属工業会の会員企業の多くは、市内大手企業の下請（協力会社）で、大手企業の事業撤退・原発問題などのあおりを受けている企業が多い。現政権に代わってから景気が良くなったという気がするが、実感はまだない。地域貢献という点では、当会で地元の小・中学生向けにロボットの製作キットを配っており、ものづくりの楽しさを分かってもらえるような取組を進めている。
- 小売業はスーパーやコンビニに押されて駄目になるのではないかという認識。昔、三宮の商店街にはカラス族と呼ばれる客引きがいたりして、治安があまり良くなかったが、警察に働きかけるなどした結果、商店街の治安はかなり良くなってきたと自負。
- 中央卸売市場の流通量が50%を割っており、中央市場がこれからどうなるのかが心配。これからの流通のビジョンを示して欲しい。また、中小企業・零細企業が認知される社会づくりが必要。声の大きいところに助成金や補助金が付くのは問題。
- 美容と健康は不可分という考えのもと、健康的なライフスタイルに役立つ商品を作っている。これからも神戸のエスプリを生かした商品作りを行っ

ていきたい。地域資源という意味では、神戸コレクションは一つの成功例ではないか。当社としても、神戸に来れば女性が美しくなるということを発信していきたい。

- 普通の商品を普通に売るという商売が難しくなっていており、人と違うことをしなければモノが売れなくなっている。神戸という町の特性を生かした町づくりをし、そこで普通の商品を普通に売れるようにすることが必要ではないか。
- 神戸の産業はいわゆる重厚長大型であり、多くの中小企業が下請企業であったが、今は自社製品の開発に取り組んでいるところも多い。ものづくり支援のみならず、マーケティング支援も必要。
- 国内雇用を支えるための支援策が少ないように感じる。雇用を維持する中小企業に対して何らかのサポートが欲しい。また、就業者支援学校といったものを民間が作るときの支援が欲しい。

<第二部 支援機関の課題と今後の取組>

- 当行は中小企業への貸出しが約5割、個人への貸出しが約3割となっており、地元の資金ニーズにお応えできていると考えている。金融円滑化法が終了したが、引き続き地域と一体となって、経営改善支援、コンサルティング業務、地域の面的再生支援などを通じ、中小企業支援を行っていききたい。
- 財務面のみならず事業面で中小企業支援が求められている。社内にも新たに委員会等を作り、販路拡大などの支援を行っているところ。販路開拓に関する支援の要望が多いが、M&Aや事業承継に関する支援ニーズも高まっている。国には様々な支援策を用意してもらっているが、それらを整理した形で示していただきたい。
- 本年2月に認定支援機関としての認定をいただいたところ。先日、ある中小企業者の方から、ものづくり補助金に関して相談があったが、本来はこちらから中小企業者の方に支援メニューをお示しできるようにならないといけないのではないかと。今後は、認定支援機関としてどのような支援ができるのか考えていきたい。
- 中小機構は起業・創業期から成長期、安定期、再生期まで幅広くサポートしており、最近では、特に海外展開支援を強化している。課題は機構の認知度をどう高めるかである。敷居が高いと思われるようであるが、どんどん相談していただきたい。中小機構以外の支援機関を含め、最適な支援をご提案する。
- 起業・創業や海外展開に関する支援ニーズが多いように感じる。前者については各種セミナーや助成金を用意しており、後者については5カ国・7

箇所国際ビジネスサポートデスクを設置するなど、やれることはやらせていただいている。課題は、国が平成26年度末に廃止予定の小規模企業者等設備導入資金制度で、本県においては、過去3年でも198社、24億円の利用があり、この制度で発展した企業も多い。ものづくり、小さな企業振興に力を入れている兵庫県としては、国の方針に非常に当惑しているところである。

- 特にもものづくり企業支援や商店街支援に力を入れているところ。前者については研究開発を助成する制度やアジア進出支援センターの設置を行ったところ。後者については空き店舗対策や集客イベント支援を行っている。

＜第三部 国の施策に関する意見交換＞

- 親族内承継についてであるが、「親族」の定義の幅が狭く、特に歴史の長い会社であればあるほど、使いにくいものになっているため、見直していただきたい。
- 以前、経産省から地域資源についての補助金をいただいたことがあるが、非常に使いにくいものであったため、返上したことがある。また、国の叙勲制度や表彰制度であるが、現役の方も対象になるようにしていただきたい。
- 女性の就労支援や起業支援として様々な施策があると思うが、託児所や保育園を整備しなければ、根本的な解決にはならないのではないかと。また、中小企業が優秀な人材を確保するのは難しいと、採用活動を行って実感した。特に、活用しきれていない女性が多いのではないかと。一度離職した女性が職場に復帰できるような支援が欲しい。
- 政権が交代して景気は徐々に良くなっているが、円安になれば良いというものでもない。急激な円安について何らかの対策を立てて欲しい。

3. 赤羽副大臣からの主なコメント

- 少子高齢化が進み、また海外からモノが入り、デフレになり、モノが普通に売れるいい時代ではなくなった。企業もマーケットを求めて海外に出ざるをえず、国内は空洞化している。また、新卒者が正規雇用されず、企業も雇用したくてもミスマッチが起きてしまっている状況の中で、どうにかしなければならない、というのが今の危機感。
- クールジャパンという戦略がある。例えば、神戸ビーフは世界で大変有名だが、ほとんど輸出ができていない。特産品と言われるような、世界でも十分通用するものが輸出できていない。一社一社で取り組んでいても難しいので、連携できる仕掛けが必要だと思う。
- 神戸にはいい素材があるので、他にはない、神戸のカラーを出した街づく

りができるといい。

- 「ダイバーシティ経営企業100選」や「なでしこ銘柄」という制度も実施しているが、企業の表彰制度は、見える化することにより、企業の信用が高まるなどのメリットも多い。もっと大々的に取り組めるとよい。
- 女性の活躍・推進は経済成長の中核だと思っている。女性が子育てをしながら仕事をする難しさ、特に待機児童の問題については、たくさん保育所も作ってもなかなか減っていないのが現状。育児休業3年の話などもあるが、経済界への働きかけ等、国としてバックアップしていきたい。また、柔軟な在宅勤務形態も推進していきたい。

4. 鈴木長官からの主なコメント

- 海外展開については、昨年の通常国会で法律改正し、国内にしっかり基盤をもち、その上で海外展開していく企業を国として支援することを、明確にした。
- 事業承継については、親族承継、親族外承継とあるが、親族外承継については、個人保証と株の買取資金がネックになっているので、政策として対応していきたい。

以上